

# スマートシティたかまつの推進について

(総務常任委員会・所管事務調査報告)

令和2年3月

高松市議会

高松市議会では、毎年度、常任委員会ごとに、委員会の所管事項のうちからテーマを設定し、閉会中継続調査（所管事務調査）を行っております。

そこで、総務常任委員会としては、令和元年度の調査テーマを「スマートシティたかまつの推進について」に決定し、鋭意、調査検討を重ねるとともに、市民との意見交換会及び2回にわたる高松第一高等学校生徒との意見交換会での意見等を踏まえ、このたび委員会として調査結果を取りまとめたので、以下、報告いたします。

## 1 現状及びテーマ選定の理由について

本市では、ICT・データの活用と産学民官の多様な主体との連携により、防災・観光・福祉・交通など、さまざまな分野での取り組みに努めているところであり、多様な主体との連携により、それぞれが保有する先進的なICTを活用・連携させることにより、新たなサービスを創出するとともに、複雑化・高度化する地域課題を解決し、持続可能なまちづくりを推進する必要があるとの観点から、令和元年7月4日の委員会で所管事務調査テーマに選定しました。

## 2 委員会等の開催状況及び活動内容について

### (1) 総務常任委員会

- ① 令和元年8月1日 当局から、本市のICT施策の現状等の説明・質疑  
応答

〔当局の説明概要〕

スマートシティたかまつの実現に向けて、平成29年からICTに取り組んでおり、現在、多様な主体と連携しながら、さまざまな取り組み

を検討するとともに社会実装をしている。

その中で、防災分野においては、水位センサー・潮位センサーを本市水防計画上の観測地点である河川8カ所と海岸5カ所に設置し、ダッシュボードと呼ばれる画面上で水位・潮位が確認でき、災害対策本部会議においても、画面を見ながら、他の情報も複合的に見て、迅速な対応ができるよう活用している。

また、観光分野においては、GPSロガー——位置情報を記録する装置を、レンタサイクル50台に取り付け、主に外国人観光客がどの経路を通過して、どこに行っているのかを把握することで、本市を訪れる観光客の満足度向上や新たな観光資源の活用による観光施策を展開している。

さらに、福祉分野においては、呼吸や心拍等のバイタル情報等が把握できるウェアラブル端末を活用した地域包括ケアシステムの構築を推進することにより、高齢者の見守り分野においてICTを活用している。

また、検討例として、スマートシティたかまつ推進協議会において、交通事故撲滅ワーキンググループがドライブレコーダーのデータを分析し、危険要因マップを作成するとともに、実際にその地点を走行した際、スマートフォンから注意喚起することで、運転に対する安全意識がどのように高まるのか実証実験を行った。

これらの取り組みなどを踏まえ、今後、まちづくり分野や農業分野など、各種分野におけるICT・データの活用や産学民官連携の充実を図るなど、さらなるICT・データの活用と多様な主体との連携により、スマートシティたかまつの実現に向けて取り組む必要がある。

② 令和元年9月17日 論点整理・質疑応答

③ 令和2年1月28日 先進地視察後の委員間討議

④ 令和2年2月18日 取りまとめ案の確認

(2) 視 察

令和2年1月9日 先進地視察

○兵庫県加古川市

- ・安全・安心のまちづくりに向けた取り組みについて
- ・データ利活用型スマートシティ推進事業について
- ・データの利活用について



(3) 意見交換会

① 市民との意見交換会

令和元年11月19日

② 高松第一高等学校生徒との意見交換会

令和元年10月4日・11月18日

### 3 委員会としての提言内容について

〔3月3日の委員長報告（閉会中継続調査終了）〕

(1) さまざまな通信技術の活用について

- ① ICTを活用するためには、電力供給が必要であり、今後、さらにIoTの設置・活用を推進していくためには、LPWA——省電力広域エリア

無線通信技術の活用などにより、ランニングコストの縮小を検討すること。

- ② 他都市の事例を踏まえ、費用対効果も十分考慮し、BLEタグ——低消費電力近距離無線技術などが活用できる環境整備について検討すること。
- ③ 多様なIoTの活用を推進するためには、個々のIoTに最適な通信を活用することが重要であるため、5G——第5世代移動通信システムの活用についても検討すること。

## (2) スマートシティたかまつ推進協議会活動の活性化について

- ① 産学民官の多様な主体が連携し、さまざまな分野におけるICT・データの活用に取り組んでいるものの、さらなる活性化策を検討すること。
- ② 産学民官が連携し、先進的なICTを活用して地域・行政課題の解決を図り、地域住民の利便性・満足度向上を図るためには、さまざまな分野で実証事業を実施することが必要であることから、積極的に実証事業に取り組むこと。
- ③ 産学民官の連携により、新たなサービスを創出し、地域課題を解決することで地域活性化につながるような仕組みの構築を検討すること。

## (3) ICT・データのさらなる活用について

- ① 今後もさまざまな分野において、ICT・データの活用に取り組む必要があることから、優先的に取り組むべき分野の検討などを進めること。
- ② 少子・超高齢化社会の到来を見据え、子供や高齢者などの見守りにICTの活用を検討すること。
- ③ スマートシティたかまつ推進協議会と連携し、ICT・データのさらなる活用を推進するために、ICT推進体制の強化を検討すること。
- ④ スマートシティたかまつ推進協議会関係者だけでなく、広くICT・データを活用できる人材の育成支援について検討すること。

- ⑤ 市民などから、ICT・データ活用についての意見や要望を収集する仕組みの構築について検討すること。